

GAIT 2 とは？

「IT全般統制の不備評価のための GAIT」(GAIT 2 または GAIT-D)は、財務報告に係る内部統制の年次評価で識別された IT 全般統制の不備を評価するためのガイドです。GAIT 2 は、不備の評価について内部監査人が外部監査人や経営者他と協議する際の拠りどころを提供します。

加えて、GAIT 2 は、「統制の例外事項および不備を評価するためのフレームワーク」の中で提供されたガイダンス、すなわち、2004 年に 9 つの公認会計士事務所によって作られ、財務報告に係る内部統制システムの不備を評価する経営者、内部監査人、外部監査人をガイドした方法論にもとづいて作成されています。GAIT 2 はこのガイダンスを 3 年にわたり適用した実務的経験を取り入れ、404 条の評価に関する基準書および実務についての大きな変更にも対応しています。

I

誰のためのもので、どう役に立つのか？

この指針は、IT全般統制の不備についての最新のアプローチを提供し、重大な不備(significant deficiencies)か、重要な欠陥(material weakness) なのかを評価する監査人や経営者に役立ちます。

GAIT 2 の評価プロセスは、6 の原則に基づく 10 のステップから構成されています。

■6つの原則

1. 財務諸表とキー・コントロールとの依拠の連鎖を理解する
IT全般統制の不備を評価するにあたっては、財務諸表と不備となったIT全般統制のキー・コントロールの依拠の連鎖を理解することが必要である。
2. 発生可能性と影響度をテストする
重要な欠陥とみなすには、a) 発生可能性 b) 影響度(財務諸表の虚偽記載の可能性)の2つのテストが必要である。
3. 発生可能性と影響度のテストを複数のステップにわたり実施する
IT全般統制の不備は、財務諸表に直接的な影響を与えないため、その評価も同様に直接的ではない。評価は様々なステージやステップにおいて行い、発生可能性と影響度の検証は複数のステップにわたり実施する
4. 同一の統制目標に関連するIT全般統制の不備をグループとして評価する
同一のIT全般統制目標に関連するIT全般統制の不備すべてをひとつのグループとして評価すべきである。
5. IT全般統制の未達成の統制目標をグループとして評価する
未達成のIT全般統制の統制目標のうち、同一の自動化されたキー・コントロール、主要なレポートまたはその他の重要なIT機能に関連するすべてをひとつのグループとして評価すべきである。
6. 集計の原則を適用する

集計の原則は、あらゆる種類の統制の不備(同一の重要な勘定科目や開示事項に関連する手動および自動化された統制の不備を含む)をグループとして考慮すべきことを要求する。

追加情報

GAITシリーズに関するご意見・ご質問があれば、下記アドレス宛にCIAフォーラム研究会 No.12 までお寄せください。

⇒ ciaforum@iiajapan.com